

学校運営協議会議事録

校名	府立八尾北高等学校
校長名	山下 尚亮

開催日時	令和6年1月31日(水)
開催場所	府立八尾北高等学校 西館 1階 会議室
出席者(委員)	野口 幸一会長、山内 雅之副会長、福井 志朗委員、高松 一仁委員 森 英世委員 西巻 純子委員
出席者(学校)	校長・事務長・教頭・首席・各分掌長・各学年主任・各主担・初任者 合計(15)
傍聴者	なし
協議資料	学校運営協議会次第、学校教育自己診断集計と考察、令和5年度重点目標の点検と更新、39期生進路状況報告
備考	

議題等(次第順)	
1. 校長あいさつ	
2. 委員紹介 出席者紹介	
3. 事務局からの説明	(1)本日の時程、配付資料の説明
4. 報告	(1)学校教育自己診断結果報告 (2)重点目標達成状況報告 ①学習指導部 ②生活指導部 ③自主活育成担当 ④保健指導部 ⑤ガイダンス部 ⑥総務部 ⑦人権教育主担 ⑧3年 ⑨2年 ⑩1年
5. 協議	(1)令和5年度学校経営計画達成状況 (2)令和6年度学校経営企画策定に向けて
6. 連絡	
協議内容・承認事項等(意見の概要)	
1. 校長あいさつ	今年度最後の学校運営協議会。多くの報告がある。 校内では、インフルエンザが流行中。学年閉鎖や学級閉鎖があるが、オンラインでの学びの保障を行っている。 1月17日には課題研究発表会を実施、野口会長、西巻委員にもお越しいただいた。
2. 委員紹介、出席者紹介	野口会長、山内副会長、福井委員、高松委員、森委員、西巻委員
3. 事務局からの説明	本日の時程、配付資料について
4. 報告	(1)学校教育自己診断結果報告 (教頭) 生徒全体について:すべての項目において、前年度に比べ肯定率が上昇した。特に項目6や10についての肯定率が上昇した。産業社会と人間といった授業が充実していたと思われる。 1年について:項目19が他学年よりも高くなっていた。授業での活用が活かされていた。 2年について:項目12や13が他学年よりも高くなっていた。ICT授業の充実が考えられる。 3年について:項目1が他学年よりも高く、前年度よりも高くなっていた。全体として充実した生活が送れていると考えられる。また、課題研究等でのクロームブックの活用が、アンケート結果にも現れていた。 保護者について:前年度に比べ、肯定率が上がった項目と、下がった項目が存在した。項目11が下がっていた。生徒が学校で頑張っている姿等を見ていただく機会を積極的に設けていきたい。 教職員について:前年度に比べ、肯定率が上がった項目と下がった項目が存在した。項目5が前年度に比べ上昇しており、授業力改善チームの取組等が影響していると思われる。また、教職員間での話し合いの項目も高くなっており、これも授業力改善の取組みの影響と考えられる。 (高松委員) ・どの項目も非常に肯定率が高くなっている。生徒との信頼関係が高くなっている証拠ではないか。 (野口会長) ・3年生について、学校へいくのが楽しいという項目の高さの要因は何か。 →(村尾T)体育祭などにおいて、コロナでの色々な制限がなくなった部分も高さの要因ではないか (森委員) ・学年が上がっていくにつれて、肯定率が高まっている。保護者の自己診断の回収率も高く、学校に関する保護者の関心が高い証拠であると感じる。 ・社会への扉で取り組んでいる内容はどのようなものか。 →(祝T)本校の伝統的な科目である。また41期生からセルフデザインワークに方向転換している。
(2)重点目標達成状況報告	学習指導部(北野T) ・教務関係では、大きなミスなく終えることができた。 ・学習支援では、授業改善チームやICT委員会の取組により、目標を達成する事ができた。

生活指導部(小泉T)

- ・懲戒件数:今年度は増加。昨年度+5件。
 - 大きな悪意のないままに、一線を超えることが多くなった。
 - ・遅刻数:昨年度に比べると減少。目標の4000は上回りそう。
 - ・スカート指導:スカートの指導件数は年々減少している。
 - ・指導拒否の生徒は少なくなった。粘り強く指導を行うことで、指導に従う生徒が増えた。
- 学校教育自己診断でも、生活指導に関する項目は高い肯定率であった。

自主活動育成担当(西口T)

- ・学校行事:参加肯定率が上昇した。

保健指導部(秋元T)

- ・検診実施率:長欠と転退学者を除き目標である100%を達成(内科、歯科)
- ・避難訓練を工夫して実施した。
- ・教育相談と連携しながら、生徒相談を行った。

ガイダンス部(祝T)

- ・「社会への扉」の内容について、「より良い社会をめざす」から、「より良い自己をめざす」に方向転換を行った。

総務部(中野T)

- ・中学校訪問を実施。71校に訪問。
- ・授業参加や部活動参加の参加率が低く、次年度のオープンスクールで改善していきたい。
- ・PTA活動について:概ね計画通り進めることができた。保護者向けの連絡は、さくら連絡網を活用した。

人権教育主担(石原T)

- ・外部会場を使用した人権学習を実施することができた。
- ・地域連携:小高連携や中高連携も実施することができた。

3年(村尾T)

- ・課題解決力の向上:課題研究について全生徒がなんとかやりおえることができた。
- ・家庭への連絡:項目12・13・14をまとめて、目標の84%を達成。

1年(大江T)

- ・色々なことができる生徒たち。様々な取組みをこれからも行っていきたい。
- ・社会への扉の肯定率が高かった。図書館の肯定率は、ビブリオバトルの影響もあると考えられる。
- ・服装について、注意を受ければ生徒は改善するが、注意を受けなくても自分たちで改善できるようにしていきたい。
- ・不適切なSNSの利用等は、今後も指導を行っていく必要がある。

<質疑応答>

(福井様)

- ・生徒会活動の取組みについて、学校の授業の組み立てを生徒たちが考えるということはあるのか。
- 学校の授業の組み立てを生徒たちが考えるということはない。

(山内様)

- ・社会への扉について、どのような取組みを行っているのか具体的に知りたい。
- 心・体・経済のジャンルに分かれ、自分のより良い生活のために何が必要かを考える機会を設けている。どれくらいのお金が人生にかかるのかという気づきを得るなど、社会と向き合う自分自身について焦点化した取組みを行っている。

(野口様)

- ・中学校訪問の時期と訪問数について
- 時期は6月の中旬頃より全員の先生が、6~7割の中学校に訪問している。

(西巻様)

- ・PTAについて、全く参加しないクラス委員が存在した。どのような声掛けを行っているのか。41期生の保護者の方が特に参加していなかった。
- 委員の選定は担任の先生方に任せている。何度もお願いをしているが、家庭の事情等でむずかしい方も多い。

5. 協議

令和5年度学校経営計画達成状況

(校長)

- ・自己診断の肯定率が非常に高く、ほとんどの項目が良い評価となった。
- PDCAサイクルの活用はまだ達成できていない。遅刻についても達成できず。来年度に向けて見直していきたい。
- 部活動の加入率について:目標値に近づいてきた。来年度以降も積極的に加入率UPへ向かっていきたい。

学校教育方針の理解については、発信が弱く、十分に理解されていない部分があった。

中学校訪問については、1年ですべての対象校に2回実施するという目標であったが、現実的ではなかったので見直す。

学校見学会については、積極的な実施ができた。

HPは、4月から現在まで142回更新し、ひと月に2000~3000回のアクセスがあった。

- ・令和6年度学校経営計画策定に向けて

(校長)

- 地域連携や人権教育は、これまで通り積極的に行っていききたい。
- 観点別学習評価については、「実施」から「定着」へと変更した。
- 1人1台端末を生かした授業を積極的に行っていききたい。
- 自己診断については、今年度の高い肯定率を維持していくのが次の目標となる。
- 業務の効率化・適切化・平常化について、次年度取り組む。
- クラブ活動の活性化について、部活動大阪モデルの活用や、加入率の向上に向け取り組む。
- 校務の改善に向けた委員会の設立を行っていく。

<質疑>

(高松様)

「在校時間80時間」とはどういう基準か

- 月あたりの在校時間が80時間を超えると産業医面談が必要となるので、これを基準に考えている。

6. 連絡

今年度の学校運営協議会は今回で終了。ありがとうございました。

次回の会議日程

日時	
会場	